

これまでの都市づくりをふりかえるとともに、今日の都市づくりの状況を踏まえ、この節ではこれからの都市づくりの基本方向を定めます。

- 都市を取り巻く状況の変化や課題を踏まえると、これからの都市づくりには基本方向の質的転換が求められているといえます。
- これからの都市づくりは、「持続可能なコンパクト・シティへの再構築」を目指し、さまざまな取り組みがよって立つべき共通の価値観（原則）を明確にして進めます。
- 全市的な観点からのあるべき都市構造を維持・強化する一方で、地域の多様な取り組みを積み重ねきめ細かく都市の質を高めていきます。

### （１）基本方向の転換の必要性

前節までで整理してきたとおり、これまでの都市の拡大成長期において計画的かつ効率的な市街地整備を推進してきた結果（2-1）、札幌の基礎的な都市基盤は高い水準で整備されており（2-2（1））、人口増加が緩やかとなるなど安定成熟期へと移行した今日、その大幅な拡充は必要ないものといえます。

一方、人口の動向以外にも都市を取り巻く状況は構造的に変化しており（同（2））、現に都市づくりの現場では、従来の都市づくりの枠組みのみでは対応が困難な今日的課題も生じつつあります（同（3））。

このような動向や課題に対応し、札幌がこれからもその魅力と活力を高めていくためには、基礎的な都市基盤の整備拡充に主眼をおいたこれまでの都市づくりの基本方向を見直すことが必要であるといえます。

とくに、多雪・寒冷の大都市という特性を持つ札幌は、冬期間の都市活動の維持のため、多くの社会的費用を要し、また、環境への負荷も大きくなる現状があることから、今後は、高い水準で確保された都市基盤を適切に維持し、十分に活用していくことを優先に考えなければなりません。

したがって、これからの都市づくりは、これまでのような拡大型の都市づくりから、以下の観点を重視した都市づくりへと転換すべきであるといえます。

## ■ 今後重視すべき観点 ■

### ア 成熟社会を支える都市づくり

少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化などに対応するため、生活利便機能をはじめとしたさまざまな都市機能の利用が容易で、多様な活動が可能な都市空間を実現する必要があります。

### イ 効率的な維持・管理が可能な都市づくり

財政的な制約が厳しさを増す中で、既存の都市基盤の維持・管理を効率化し、都市の魅力と活力の向上を先導する取り組みへの重点的な対応を可能とする必要があります。

### ウ 環境と共生する都市づくり

深刻化する地球環境問題に対し札幌がその役割と責任を果たしていくため、土地利用の高度化や移動距離の短縮化を図るなど、都市の構造を、エネルギー利用効率の高いものに誘導する必要があります。

### エ 地域コミュニティの活力を高める都市づくり

地域コミュニティ<sup>\*16</sup>の活力を高め、支えあい、住み続けられる地域を実現するため、地域の多様な活動や交流が活発に展開する場を維持・充実する必要があります。

\*16 地域コミュニティ コミュニティは、地縁、血縁、文化的背景、価値観などに基づく共同体であり、そのうち、地縁的な要素の大きいものを地域コミュニティとする。要求型の住民運動から提案型のまちづくり活動への変化を背景に、地域コミュニティに期待される役割も変化してきている。

## (2) 都市づくりの理念と原則

### ① 都市づくりの理念

前述の観点を重視したものへと基本方向の転換を図るべきこれからの都市づくりについて、その理念を以下のとおり定めます。

都市づくりの理念

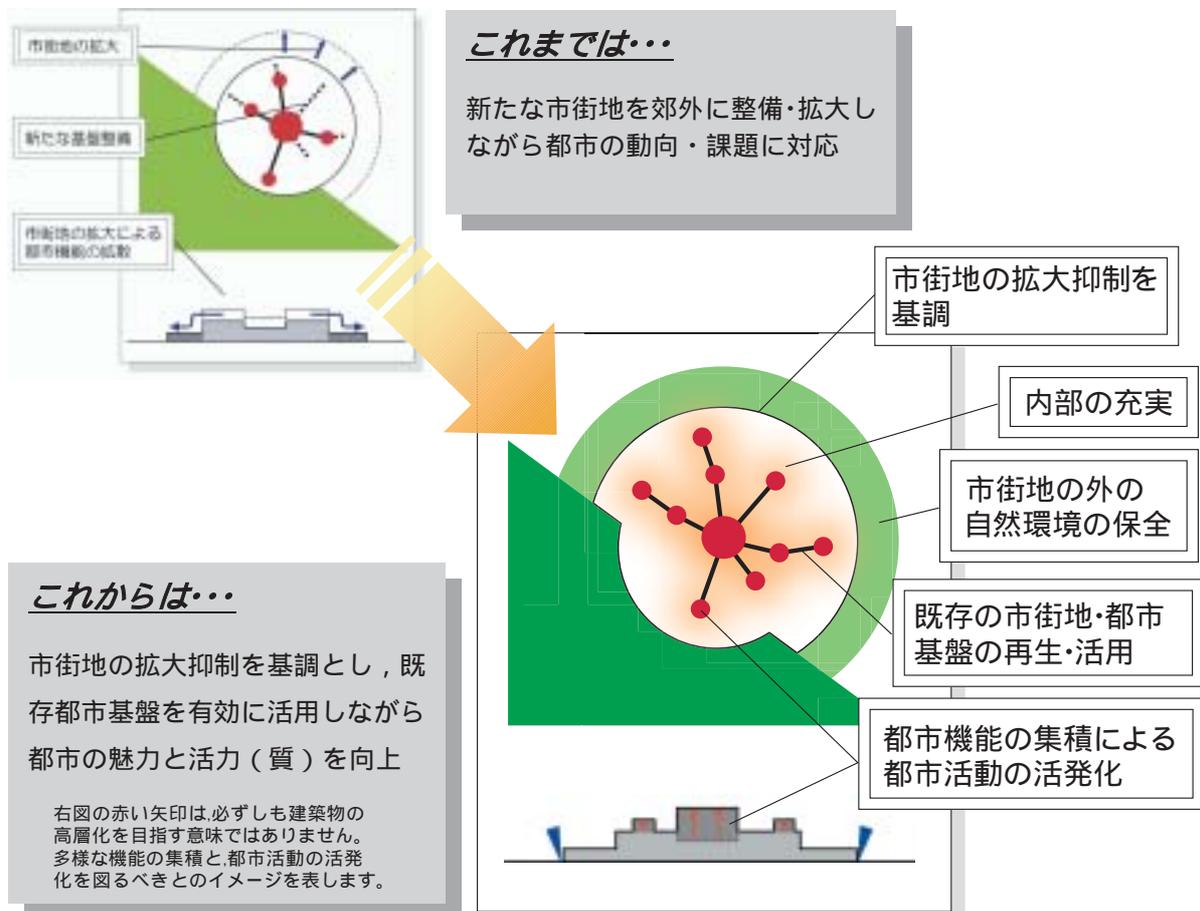
**持続可能なコンパクト・シティへの再構築をともに進めよう**

ここで、「持続可能なコンパクト・シティ」とは、大きく以下の二つの視点からその考え方が説明されるものです。

#### ア 都市全体の視点から

～既存の市街地、都市基盤の再生・活用と市街地の外の自然環境の保全

都市全体が機能的なまとまりを保ち、魅力と活力の向上が図られることを重視します。そのため、拡大の抑制を基調とした市街地において、地下鉄沿線等の有効利用を誘導するなど、既存の市街地、都市基盤の再生・活用を図るとともに、市街地の外の自然環境を保全します。



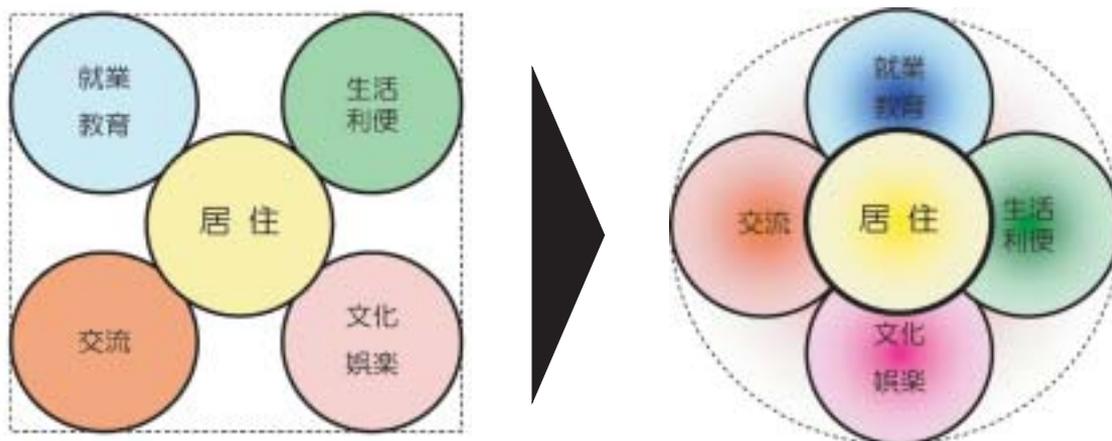
## イ 身近な地域の視点から

### ～居住機能を中心とした身近な範囲での多様な機能のまとまり

主として徒歩での移動が可能な身近な生活圏の中で、日常的な生活を支える多様な機能がまとまりを持って提供されることを重視します。

そのため、居住機能を中心に、買い物、仕事、学習など、多様な機能相互の連携、複合を図ります。

#### ■都市機能配置のイメージ■



#### これまででは…

- ・各機能を明確に区分して配置
- ・拡大，拡散
- ・機能の純化

#### これからは…

- ・さまざまな機能が，居住機能を中心にまとまりを持って構成
- ・内部集約，まとまり（集積）
- ・機能の複合

## ② 都市づくりの原則

「都市づくりの理念」をより鮮明化するとともに、具体の取り組みを進める上で、よって立つべき共通の価値観を総合的な視点から明確化するものとして、「都市づくりの原則」を定めます。

この原則をまとめるに当たっては、次に示すとおり3つの抽出の視点からその枠組みを定め、それぞれについて内容を整理しています。

なお、各原則の内容は、今後個々に進められる取り組みの具体の場面において、その状況・条件に応じて関連の強い原則を選択し、尊重しながら検討を深めていくための、いわば手がかりとして整理するものです。

また、各原則の内容は、素案作成前から段階的に実施した「市民勉強会」での意見交換や、素案の公表時に寄せられた市民意見を踏まえて掘り下げています。（参考資料P112～115参照）

### ■抽出の視点■

#### 基本方向の転換の観点から

- ア 成熟社会を支える都市づくり
- イ 効率的な維持・管理が可能な都市づくり
- ウ 環境と共生する都市づくり
- エ 地域コミュニティの活力を高める都市づくり

#### 生じている現象・課題から

- 目標の具体化と事前提示
- 社会・経済の変化への適切な対応
- 特質・個性の重視
- 投資効果の追求とメリハリ
- 地域の価値観の明確化

#### 求められる都市生活像から

※市民意見をもとに整理

#### 活動・交流, 多様性・選択性

- 高齢者も社会参加できるまち
- 交流の場づくり
- 利用者の視点に立った交通

#### 環境・自然

- 自然との共生
- みどりとのふれあい
- 環境にやさしく適度に便利

#### 個性・風土

- 札幌らしい景観の創出
- 冬・雪を考えた都市づくり

#### 協働

- 市民自らの取り組み
- 行政による市民活動の支援と投げかけ

### ■都市づくりの原則■

#### ア 目標系

原則1 | 一人ひとりの暮らしの質の向上を支えます

原則2 | 自然と共生し北の風土特性を尊重します

原則3 | 多くの人が集まる場を大切にします

#### イ 進め方系

原則4 | 既存資源を上手に再生・活用します

原則5 | 施策の総合化・重点化と協働を重視します